

令和6年能登半島地震 災害対策ニュース

被災者「家を見てもらって安心した」

能登町で応急修理（ブルーシート展張）実施



左から石川県連の任田（とうだ）会計理事、富来（とぎ）町組合の川田さん、坂下さん、石川県連の中川、嶋田両副会長、全建総連・小林技対部長

2月1日、県を通じ能登町から協力要請のあった災害家屋の応急修理（ブルーシート展張）を実施しました。

石川県連の事務所に午前6時30分に集合し、能登町役場までは3時間半の道のりです。応急修理には、石川県連、全建総連合わせて8人が参加しました。

能登町役場の担当者からは、1300件の応急修理依頼があり、日々増えているのが現状。3軒の応急修理依頼を5人1チームで役場から支給された地図、ブルーシートなど資材を持って、現場に向かいました。1、2軒目は瓦の破損やズレ等が無かったためブルーシート展張は行わず、3軒目は連棟部分の亀裂から雨水の侵入を防ぐためにブルーシート掛けを実施しました。

被災された家主からは、「町からは申し込み



家屋と接合している建物でしたが、震災ですきまが空いてしまい雨漏りをしている状況

（施工前・写真左上）、安全を確保して慎重に作業（写真右）



が多くシート張り実施まで結構時間がかかると言われていて不安だったが、今日、職人さんに家を見てもらい、問題ないですよと言われてホッとした」と安どの声をかけていただきました。

参加した仲間から、「午後から雪と風が強くなり3軒しかできなかったが、第2回以降につながる経験ができた。今後も人を集めて実施したい」「雨が入らない対策で喜んでもらえた。被災者の方々は、職人さんと話ができると安心できるのではないかな。少しでも、お役に立てる活動をしていきたい」などの感想がありました。

なお、次回実施は2月9日の予定（正式決定は天候の状況を見て後日執行部が判断）です。

全建総連から石川へ支援金

中西委員長・花岡副委員長から手渡す



全建総連・中西委員長（中央）、花岡副委員長（左）から石川県連・松本会長へ支援金を手渡す

全建総連の中西委員長、花岡副委員長、勝野書記長、小倉書記次長は2月1日、石川県連を訪問し、松本会長に支援金の目録を手渡しました。

中西委員長は「能登半島地震で亡くなられた仲間と家族に心からお悔やみ申し上げると共に、被災された仲間にお見舞い申し上げます。困った時に助け合うのが組合。全建総連には61万の仲間がいる。遠慮なく言ってほしい」と激励しました。

松本会長は「全国の組合の心遣い、支援に深く感謝している。被害が甚大な能登地域では、被災状況の把握もできておらず、単組の立て直しもしないといけない。引き続き、被災地の復旧・復興に向けて取り組んでいきたい」と謝意を示しました。

【応急仮設木造住宅建設で就労期間見直しのご案内】

生コンクリートについては、復旧復興工事の需要急増や生コン工場の被災による供給不足が相まって、必要量を入手することが困難な状況となっています。こうしたことから、就労期間等を見直させていただくこととしました。

就労期間は地域によって異なりますが、3月上旬以降とさせていただきます。詳しくは県連・組合に送付済みの発文書をご覧ください。

就労者確保にご理解・ご協力をいただいている皆様にお詫び申し上げますと共に、引き続きの対応を心からお願い申し上げます。

石川県連 被災した仲間へ一時見舞金

松本会長ら執行部が被災単組に手渡す

石川県連は、1月26日の理事会で確認した被災されたすべての組合員へ一時見舞金（一人2万円）支給の取り組みの第1回を1月30、31日に松本会長はじめ執行部のメンバーで実施し、被害の大きかった輪島組合を始め能登地域15単組290人に合計580万円を手渡しました。河北郡市4組合に対する第2弾の取り組みは近日中に実施予定です。

取り組みの先頭に立った松本会長からは「口々に県連が早速直接持ってきてくれ本当に有難いと言ってくれた。御礼の電話をくれる人もいた」。一方、「全単組が組合としての活動再開にはもう少し時間がかかる状況で、単組役員はなるべく早く体制を整えたいと話している。当面、県連としての支援を続けていく必要がある」と被災地域単組の厳しい状況が示されました。

さらに、松本会長は「今回の取り組みは、全建総連の支援金の一部も当てており、全国の仲間へ改めて感謝したい。県連としても頑張っていくので、引き続き支援をお願いしたい」と全国の仲間へ強い感謝を示しました。

今回の取り組みはあくまで一時見舞金を迅速に被災組合員に渡す取り組み。石川県連では今後、被災の程度に応じた災害見舞金の支給も実施していきます。